



スクールカウンセラーとして

イダ シホ

☆スクールカウンセラーとしてこの春で7年目に突入しました。群馬県内の小学校、中学校、高等学校と担当させていただきましたが、ここ最近では高等学校のみを担当させていただいております。

いろんな気持ちを抱えた生徒たち

私が担当している高校には、意を決してこの高校を選び、通ってくる生徒がいます。「高校からは頑張りたい」。今までの自分と決別し、変わりたい気持ち全力で、この高校を選んでくるのです。「知っている人が誰もいない高校に行きたかった」と、遠くから通う生徒もいます。また「中学校の先生と、高校からは頑張るって約束したんだ」と、先生との約束を果たすために、一生懸命学校に通う生徒がいます。「本当は高校には来たくない。でもお母さんが行けって言うから」そんな生徒もいます。

いろんな気持ちを抱えた生徒が集まる高校。本来ならば、毎朝自転車置き場辺りで、「よく来たね!」と、一人ひとり肩を叩いて激励したい気持ちですが、私たちスクールカウンセラーは、年間の勤務日数が決まっています。月に換算すると毎月1～2回程度。年間で12～20回前後の勤務の中で、彼等の高校生活を支えなければなりません。

年度始めに、高校の年間行事予定表とにらめっこをしながら、スクールカウンセラー担当の先生と、勤務日を決めます。「4月の全校集会で自己紹介して、広く生徒に顔と存在を知ってもらいましょう」、「2学期に重点的に勤務日を充てましょう」、「修学旅行前と後にも多めに来てもらいましょう」などと。限られた年間勤務日数をどのように割り振るのか、謎解きをしているような気分になりますが、変化する生徒の動向を想定しながら勤務日を決めていきます。

卒業まで応援したいが

高校は、義務教育ではありません。そのため、長期欠席が続くと、生徒自身の意志に関係なく、「留年」や「退学」になってしまいます。今まで義務教育で守られていた小学校や中学校と違い、高校は情けが通用しません。本来であれば、彼等の気持ちに寄り添いたい。でも、いつまでも「いいんだよ」と、言っていられないのが高校です。

高校だけが生き方ではないのは、私も同じ気持ちです。でも高校は行っておいた方がいい。その後の選択肢がぐんと広がるからです。また、頑張りたい気持ち、変わりたい思いで、彼等が選んだ高校。卒業することで自分にOKが出せるのであれば、卒業までを支援したい。そんな気持ちで、目の前の彼等を先生とともに応援しています。

悩みを打ち明ける相手の一人として

皆、悩んでいます。悩みがあってはいけない。いつも元気ハツラツな自分でいなくてはならない。そんな風に私自身、思ってきました。でも、その悩みを消すために努力をしても、また違う悩みが湧いてきます。悩みって、きっと生きていく間中ずっと、つきまとうものなのかもしれない。悩みがあるのはダメなんじゃなくて、悩みはあって然りと認めちゃう。もしくは、悩みを誰かに打ち明ける勇気を持つ。誰かに話すことで悩みの整理ができ、ちょっと心が軽くなる。私は、悩みを打ち明ける相手の一人として、彼等から選んでもらえるよう、信頼してもらえるよう、ひっそりと、でも全力で彼等を応援しています。様々な思いを抱えながら登校する高校で、シェルターのようにホッとできる場、そんな相談室になることを目指しています。「いつでも応援しています」そんな気持ちを込めて。